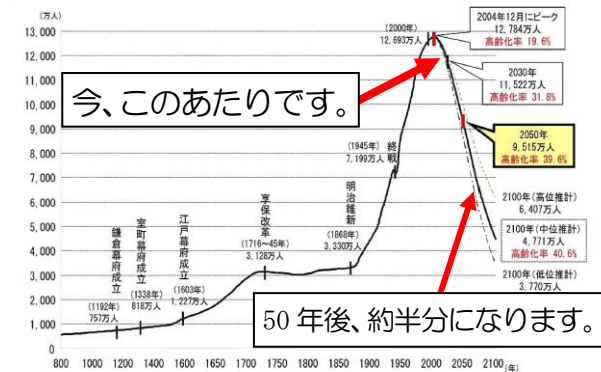




我が国における総人口の長期的推移

○ 我が国の総人口は、2004年をピークに、今後100年間で100年前（明治時代後半）の水準に戻っていく。この変化は、千年単位でみても類を見ない、極めて急激な減少。



出典:「国土の長期展望」

(平成23年2月21日国土審議会政策部会長期展望委員会)

左図は、今後の日本の人口予想を示しています。今の一億二千万人が半分になっても収まらない急激な下り坂の中で、どのように社会の仕組みや営みを作っていくか。誰も経験したことのないこの状況に立ち向かうには、前例に囚われないアイデアと自由闊達な議論、そして、前向きな精神（をもつ子どもたちの育成）が求められています。

「人口減少」の中で

学校だよりの残りの号数が少なくなってきたので、今後の最重要課題だと思っていることについて記述したいと思います。

口之津中学校 学校だより

心広く
心高く



困難な時代こそ、 出会いを大切に

「人類の歴史の中で、大きな変化をもたらした『特異点（シンギュラポイント）』というものがある。（安岡正篤）」と言われます。馬車から自動車へ、手紙から電話へ、手計算からコンピュータへ。世界大戦の引き金を引いた一発の銃弾、国会を大混乱に陥らせた一言のヤジもありました。そして、今回の人口増加から人口減少への大転換。

さて、皆さんも、自分事としてこの「特異点」がおりじやないでしょうか。今、ここに「いる」ことになった「あの出来事」「あの体験」「あの人との出会い」というような特異点が。（生徒たちにとって、私もそのような存在になりたいと思って教育活動を進めてきました。）

来る三月十一日、二十二名の三年生が、この口之津中学校を巣立ちます。過ぎ行く日々の中で彼らも貴重な出会いに気づき、生かす人になって欲しい。そして自分自身もまた、誰かの「特異点」になって一つの出会いが響き合い、そして広がる。そんな「あなたがいてくれて本当に良かったと言ってもらえる人」になって、この困難な時代を生き抜いていってくれたらと切に願っています。



《コラム 港町ブルース》

教訓や学びを次に生かす

先日、長崎県教育委員会の「学校安全」に関する表彰を受けました。主な授賞理由は「東日本大震災に関する取組を生かした学校安全体制の構築（マニュアル等の整備など）」でした。

このコラムも毎年この時期には、あの震災にちなんだ内容を綴ってきました。避難者の方々のこと、避難所となった学校のこと、津波でんでんこの教え、「あれから九年」「あれから十年」「あれから十一年」と薄れゆく記憶のこと。

あれから十四年になります。

あの震災で学んだ教訓や困難な状況の中で生き抜いてこられた方々の教えを忘れず、次の巨大地震や津波に備えたいと思います。



《 主な行事予定 》

〈3月〉

- 5日（水）公立高校一般選抜合格発表（3年生は、午後下校）
- 11日（火）卒業証書授与式
- 12日（水）公立高校入試 選抜検査
- 13日（木）合同高校等説明会（オライ）
↑保護者様の参加も可能です。
- 24日（月）修了式・離任式

〈令和7年度 4月〉

- 7日（月）着任式、始業式（給食あり）
- 8日（火）入学式（午前、1年生給食なし）
1年生育友会入会式
- 11日（金）歓迎行事（要弁当）
- 15日（火）全国学力調査（3年生、理）
- 17日（木）全国学力調査（3年生、国数）
県学力調査（2年生、国・数）
- 18日（金）県学力調査（3年生、英）
- 22日（火）育友会総会

《心に響いた言葉》 「響け この歌声 響け 遠くまでも～♪ また会おう 群青の町で～♪」

昼休み、校長室にも聞こえた3年生の歌声から（「群青」…3年生が卒業式で歌う式歌です。）



シリーズ「」次の「学習指導要領」

三、教育課程の実施に伴う負担への指摘に真摯に向き合うことを含む、学習指導要領の趣旨の着実な実現のための方策

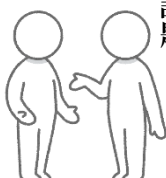
このシリーズでは、これまで「次の」学習指導要領に関する中教審での協議内容について記述してきました。今回は「教育課程（主に授業）」の在り方です。左の枠内がその項目（抜粋）ですが、ご覧のとおり、「負担軽減」や「増加しない」などの文字が並びます。要約すれば『**現代的な諸課題**』や『**情報技術**』『**カリキュラムマネジメント**』への対応ということでしょうか。

- 教育課程の実施に伴う過度な負担や負担感が生じにくい在り方
- 現在以上に増加させないことを前提とした年間の標準総授業時数の在り方、教育課程の実施に伴う負担に留意した上で、現代的な諸課題を踏まえた様々な教育の充実の在り方
- 新たな学びにふさわしい教科書の内容や分量
- 情報技術を扱うことを可能とするための方策、デジタル教科書の在り方など変化の激しい分野において、教師の負担軽減を図りつつ最新の教育内容
- 「コミュニティ・スクールを含む地域や家庭との連携・協働を促進しつつ、過度な負担を生じさせずにカリキュラム・マネジメントを実質化する方策

上段に記した『現代的な諸課題』をもう少し調べてみました。すると、同審議会の資料の中に「顕在化している課題」として、次のことが挙げられていました。

- 子供の幸福度（精神的幸福度、身体的健康、学力・社会的スキル）
- 学校が抱える様々な教育課題（不登校、暴力行為、特別支援教育関連 など）
- 小・中学校における不登校
- いじめ
- 通常の学級に在籍する特別な教育的支援を必要とする児童生徒
- 中学校四十人学級（小学校三十五人学級）における多様性
- 児童生徒が学校で受けている授業に関して思うこと
- 不登校生徒が思う「学びたいと思える場所」
- 「上手な勉強のしかたがわからない」児童生徒は学年が上がるほど増加
- 深い理解を伴う知識の習得に課題
- 「自分の考え」を書くことに課題
- 自律学習を行う自信に課題
- 十八歳の当事者意識
- 諸外国のデジタル競争力

実にたくさんの課題が列挙してありました…。授業を〇ベースで見直すことが必要のような感じがします。しかし…、これらをどのように「負担軽減」との折り合いをつけて取り組んでいくか。「学校（教員）がやること」と「やらないこと」を峻別※することが必要と感じているところです。



峻別※：厳しく区別すること

ふるさとの文化・歴史・人物——口之津中教育の視点から

「口之津」

ところで「くちのつ」の由来ってなんやろ〜？と思いついてネットで調べてみました。

「もつばらしまばら」の松尾先生

曰く「有明海の入り口にある津（港）」ということからその名が生まれたろう。」とのこと。もう少し確かな（失礼…）情報はないかな？と探してみると、次の記述がありました。



建保三年（一二二五）有馬氏の祖という藤原経純が弁済使として口之津に入ったと伝えらる（「藤原有馬世譜」など）。

名の由来は見つけることができませんでしたが、なんと一二一五年！今から八〇〇年以上前の鎌倉時代（北条政子の時代）にさかのぼります。悠久の歴史と文化、そして豊かな自然を有するこの口之津を誇りに思い、次代に伝える学校であり続けたいと思いました。

【お知らせ…卒業証書授与式について】

※今年、期日が早くなりましたので御留意ください。

場所…口之津中学校体育館
期日…三月十一日（火）

九時三十分開式
十一時十分閉式予定

このあと、最後の学活→見送り

